

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 9 章 汚泥処理設備工事
第1節 濃縮前処理設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 濃縮前処理機械スクリーン

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブルの接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 減速機油面計は見やすい位置にあるか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグ(赤色)またはキャップ(赤色)はついているか。
- ☐ 減速機の給油量は適量か。また、油の品名を表示したか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ 歯車及びドラム外周取付けローラーチェーンにグリースを塗布したか。
- ☐ 点検扉を全開にし、周辺物への干渉はないか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)
- ☐ 洗浄ポンプの運転を行い駆動部から異常音・異常振動がないか。

3. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。
- ☐ 駆動部歯車カバー部には危険表示塗装をしてあるか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 制御盤のケーブル引き込み部のシールは十分か。
- ☐ 制御盤内に図面(配線図、シーケンス等)は入っているか。
- ☐ 点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けられているか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 9 章 汚泥処理設備工事
第1節 濃縮前処理設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 濃縮前処理沈砂分離装置(液体サイクロン)

1. 本体

- ☐ 調整アダプタの分離組立が容易にできる配管構造になっているか。
- ☐ 取付ボルトの増し締めは完了したか。

2. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。

3. その他

- ☐ 点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けられているか。傾斜部に滑り止め措置はされているか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編) 第 9 章 汚泥処理設備工事 第2節 汚泥濃縮槽汚泥かき寄せ機	点検実施日	平成 年 月 日
	点検者名	印
	施工場所	

機 器 名 称 ： 汚泥濃縮槽汚泥かき寄せ機

1. 駆動装置

☐	端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
☐	端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
☐	減速機油面計は見やすい位置にあるか。
☐	排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
☐	排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
☐	減速機の給油量は適量か。また、油の品名を表示したか。
☐	回転方向は確認したか。
☐	運転を行い駆動部から異常音がないか。
☐	ドライブユニット内に進入した水は自然排水可能か。また、臭気が出ない構造か。

2. 本体

☐	スカムスキーマとバッフルプレートの間隔は正しく調整したか。
☐	池底とレーキの間隔は正しく調整したか。
☐	点検扉を全開にし、周辺物への干渉はないか。
☐	アンカーボルトの増し締めは完了したか。
☐	モルタルの仕上げ状態はよいか。
☐	防食部のアンカー打設箇所は適正に補修されているか。
☐	ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)
☐	振動部のボルトナットに廻り止め措置はされているか。
☐	グリースニップルは作業しやすい所に配置したか。
☐	グリースは給油口から軸受まで充填されているか。
☐	水面下部30cm、気相部に重防食塗装を施工したか。
☐	チェーン・sprocketにグリースを塗布したか。
☐	運転を行い(寸逆時も)池底とレーキの干渉はないか確認する。

3. 塗装

☐	水上部は指定色が塗布されているか。
☐	機器名称は見やすい位置に書いたか。
☐	回転方向の矢印は色塗りしたか。
☐	駆動装置カバー部には危険表示塗装をしてあるか。
☐	現場溶接部は、下地から補修塗装を行ったか。

4. その他

☐	施工管理記録は作成したか。
☐	池底コンクリートのモルタル仕上げ面に剥離はないか。
☐	制御盤のケーブル引き込み部のシールは十分か。
☐	制御盤内に図面(配線図、シーケンス等)は入っているか。
☐	点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けられているか。傾斜部に滑り止め措置はされているか。
☐	清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 9 章 汚泥処理設備工事
第3節 機械濃縮機

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 機械濃縮機 (ベルト・スクリー)

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音・異常振動がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。(ベルトの仕様×本数を表示)
- ☐ 油面計は見やすい位置にあるか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の面取り処置はしたか)
- ☐ 運転を行い本体部(内胴・外胴)から異常音がないか。

3. 塗装

- ☐ 水上部SS材は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 制御盤のケーブル引込み部のシールは十分か。
- ☐ 制御盤内に図面(配線図、シーケンス等)は入っているか。
- ☐ 点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けられているか。傾斜部に滑り止め措置はされているか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編) 第 9 章 汚泥処理設備工事 第4節 汚泥遠心脱水機	点検実施日	平成 年 月 日
	点検者名	印
	施工場所	

機 器 名 称 : 汚泥遠心脱水機

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ 計器類の位置は見やすい位置にあるか。
- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
- ☐ 油圧ユニットおよび差速装置の給油量は適量か。
- ☐ 油圧配管の酸洗及びフラッシングは完了したか。
- ☐ 防音カバーの点検扉を全開にし、周辺物への干渉はないか。
- ☐ 振動部のボルト、ナットに廻り止め措置はされているか。
- ☐ 脱水ろ液のサンプリング口があるか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)

3. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 制御盤のケーブル引込み部のシールは十分か。
- ☐ 制御盤内に図面(配線図、シーケンス等)は入っているか。
- ☐ 高調波計算書を作成したか。
- ☐ 点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けているか。傾斜部に滑り止め措置はされているか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)

第 9 章 汚泥処理設備工事

第5節 汚泥ポンプ設備

点検実施日 平成 年 月 日

点検者名 印

施工場所

機 器 名 称 : スクリュー式うず巻ポンプ

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。
- ☐ 油面計は見やすい位置にあるか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
- ☐ ポンプの給油量は適量か。
- ☐ 各ドレン配管(ケーシングドレン等)は側溝まで配管したか。
- ☐ サンプリング配管(25A 以上)を設け、側溝まで配管したか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)

3. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)

第 9 章 汚泥処理設備工事

第4節 汚泥ポンプ設備

点検実施日 平成 年 月 日

点検者名 印

施工場所

機 器 名 称 : 一軸偏心式ポンプ

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。(ベルト仕様を記入したか)
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
- ☐ 圧力計器類は、見やすい位置にあるか。
- ☐ ポンプの給油量は適量か。
- ☐ 各ドレン配管(ケーシングドレン等)は側溝まで配管したか。
- ☐ サンプリング配管(25A 以上)を設け、側溝まで配管したか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ コモンベース内の水抜き措置は良いか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)

3. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ ステータの抜き出しスペースを考慮しているか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 9 章 汚泥処理設備工事
第4節 汚泥ポンプ設備

点検実施日	平成	年	月	日
点検者名	印			
施工場所				

機 器 名 称 : 無閉塞形汚泥ポンプ

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。(Vベルト仕様を記入したか)
- ☐ 油面計は見やすい位置にあるか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
- ☐ 圧力計器類は、見やすい位置にあるか。
- ☐ ポンプの給油量は適量か。また、油の品名を表示したか。
- ☐ 各ドレン配管(ケーシングドレン等)は側溝まで配管したか。
- ☐ サンプリング配管(25A 以上)を設け、側溝まで配管したか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)

3. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 9 章 汚泥処理設備工事
第6節 薬液ポンプ設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 一軸偏心式ポンプ

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
- ☐ ポンプの給油量は適量か。また、油の品名を表示したか。
- ☐ 各ドレン配管(ケーシングドレン等)は側溝まで配管したか。
- ☐ サンプリング配管(25A 以上)を設け、側溝まで配管したか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)

3. 塗装

- ☐ 水上部SS材は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ ステータの抜き出しスペースを考慮してあるか。
- ☐ 清掃は完了したか。

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 9 章 汚泥処理設備工事
第6節 薬液ポンプ設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

1. 駆動装置

☐	端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
☐	端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
☐	回転方向は確認したか。
☐	運転を行い駆動部から異常音がないか。

☐	アンカーボルトの増し締めは完了したか。
☐	モルタルの仕上げ状態は良いか。
☐	ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)

☐	水上部は指定色が塗布されているか。
☐	機器名称は見やすい位置に書いたか。

☐	施工管理記録は作成したか。
☐	薬品の危険性、取扱いを表示したか。
☐	清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)

第 9 章 汚泥処理設備工事

第7節 汚泥ケーキ移送ポンプ設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 一軸偏心式ポンプ

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 油面計は見やすい位置にあるか。
- ☐ 排油作業は容易に行えるスペースがあるか。(ドレンパンが入るスペースがあるか。)
- ☐ 排油バルブにプラグまたはキャップはついているか。
- ☐ 減速機の給油量は適量か。また、油の品名を表示したか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトおよびチェーンの緊張度を正しく調整したか。
- ☐ チェーンにグリースを塗布したか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の処置はしたか)

3. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ ステータの抜き出しスペースを考慮してあるか。
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 10 章 脱臭設備工事
第1節 脱臭設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

脱臭塔(活性炭吸着式)

1. 本体

- ☐ 圧力損失測定用マノメーター(不凍液入り)が取り付けられているか。
- ☐ ドレン管、ドレン弁は取り付けられているか。接続継手は耐候性か。
- ☐ 吸着剤搬出入用扉を全開にし、周辺物への干渉はないか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の面取り処置はしたか)
- ☐ 吸着塔出口側に、サンプリング口を設けたか。
- ☐ 流入ダクトと流出ダクトの間に、バイパスダンパを取付けたか。
- ☐ 活性炭充填量m3を明示したか。
- ☐ 活性炭量10,000kg以上は、指定可燃物としての掲示板を掲げているか。(大阪市火災予防条例)
- ☐ 脱臭ダクトの風量測定とバランスの確認をしたか。
- ☐ カートリッジに活性炭の種類・充填量・設置順序を表示したか。
- ☐ 活性炭充填後、カートリッジに積高さの余裕はあるか。
- ☐ 脱臭塔底部に結露水が溜らない程度の勾配がついているか。
- ☐ 脱臭塔ドレン配管の勾配は適正か。
- ☐ ドレン管の水封トラップの水封皿が運転時に確認できるか。
- ☐ 排水先は、排水による腐食を十分に考慮しているか。

2. 塗装

- ☐ 水上部は指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。

3. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 活性炭必要量、風量、静圧計算書を作成したか。
- ☐ 吸着剤の入れ替えが容易に行えるスペースは確保しているか。
- ☐ 敷地境界での騒音規制値をクリアしているか
- ☐ 臭気ガスの出入り口付近のダクトには試料採取口を設けたか。
- ☐ 点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けられているか。傾斜部に滑り止めは措置されている
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 10 章 脱臭設備工事
第1節 脱臭設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

脱臭塔(生物脱臭)

1. 本体

- ☐ 圧力損失測定用マノメーターが取り付けられているか。接続継手は耐候性か。
- ☐ スプレー配管にはノズルが詰らないようにストレーナが取り付けであるか。
- ☐ ドレン管、ドレン弁は取り付けられているか。
- ☐ タンクと塩ビライニング配管との接続部には可とう管がついているか、また適切なサポートがあるか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の面取り処置はしたか)
- ☐ ドレン管の水封皿が確認できるか。
- ☐ 排水先は、排水による腐食を十分に考慮しているか。

2. 塗装

- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。

3. その他

- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 充填物の入れ替えが容易に行えるスペースは確保しているか。
- ☐ pH計の校正が容易に行える架台、設備、スペースはあるか。
- ☐ 臭気ガスの出入口付近のダクトには試料採取口を設けたか。
- ☐ 制御盤のケーブル引き込み部のシールは十分か。
- ☐ 制御盤内に図面(配線図、シーケンス等)は入っているか。
- ☐ 点検歩廊に蹴り止め、水抜き穴は設けられているか。傾斜部に滑り止めは措置されている
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 10 章 脱臭設備工事
第1節 脱臭設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 脱臭ファン

1. 駆動装置

- ☐ 端子ボックスの位置、向きはケーブル接続に支障ないか。
- ☐ 端子ボックスカバーの取り外しスペースは確保しているか。
- ☐ 回転方向は確認したか。
- ☐ 運転を行い駆動部から異常音がないか。

2. 本体

- ☐ ベルトの緊張度を正しく調整したか。(Vベルト仕様を表記したか)
- ☐ Vベルト緊張度調整後、スライド幅に余裕はあるか。
- ☐ 各ドレン配管(ケーシングドレン等)は排水先・側溝まで配管したか。
- ☐ U字ドレン配管は水封が確認できるよう透明VPになっているか。
- ☐ 振動部のボルト、ナットに廻り止め措置はなされているか。
- ☐ アンカーボルトの増し締めは完了したか。
- ☐ モルタルの仕上げ状態は良いか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の面取り処置はしたか)
- ☐ 油面計は管理上、見やすい位置にあるか。また、油の品名を表示したか。

3. 塗装

- ☐ 水上部には指定色が塗布されているか。
- ☐ 機器名称は見やすい位置に書いたか。
- ☐ 回転方向の矢印は色塗りしたか。

4. その他

- ☐ 接続フランジは、発砲軟質塩化ビニル又はクロロプレンゴム製の全面パッキンとなっているか。
- ☐ 施工管理記録は作成したか。
- ☐ 官公庁への届け出書類はあるか。(騒音・振動)
- ☐ 清掃は完了したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 10 章 脱臭設備工事
第1節 脱臭設備

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

機 器 名 称 : 脱臭ダクト

1. 全般

☐	接続は、熱風溶接によるソケット接合または当て板接合またはフランジ接合になっているか。
☐	臭気の流れ方向に対してダンパーが適切に設けているか。
☐	バタフライ弁・ダンパーに管理値(赤色で矢印)のマーキングをしたか。
☐	ダクトに結露水が溜らない程度の上り勾配がついているか。
☐	ドレン水の排水先は、排水による腐食を十分に考慮してドレンが滞留しないか。
☐	必要個所に風量測定口があるか。
☐	バタフライ弁の据え付けは横軸とする。
☐	屋外の硬質塩ビ並びに軟質塩ビを施工する時は紫外線対策を講ずる。
☐	風量測定口に、名称・通し番号が記入されているか。
☐	接続フランジは、発砲軟質塩化ビニル又はクロロプレンゴム製の全面パッキンとなっているか。

2. 塗装

☐	ダクト塗装の仕上げ、文字書き(管名・行先・矢印等)等の仕上げ状態が良いか。
☐	開閉ハンドルまたはレバーの開閉矢印に色塗りしたか。

施 工 チェック シート

共通仕様書(下水道施設機械編)
機械設備工事
関連工事

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

名 称 : 鋼製架台類

1. 全 般

☐	アンカーボルトの増し締めは完了したか。又、バブルナット(異種ナット)時の締め付けに注意
☐	脚基礎モルタルの仕上げ・面取り状態はよいか。
☐	亜鉛めっき表面の仕上がり状態はよいか。(ざらつき・バリ等がない)
☐	高力ボルトの使用部分の締付力は適切か。
☐	高力ボルトの使用部分の増し締めは完了したか。
☐	ボルトの突出し長さは適切か。(2～3山程度)(切断面の面取り処置はしたか)
☐	床材の固定状態は良いか。
☐	点検歩廊に蹴り止め、水抜穴は設けられているか。
☐	傾斜部・踏み面に滑り止め措置はなされているか。
☐	グレーチングの切り欠き部は、再亜鉛めっき・高濃度亜鉛塗装を施し、クローズエンドとなっているか。
☐	機器と架台との隙間が必要以上に大きくないか。
☐	機器、配管類に保温等を施工する際は、保温厚みを考慮した開口となっているか。
☐	高所の点検歩廊・手摺開口部、転落防止措置をしているか。
☐	歩廊・階段幅は点検に必要な寸法となっているか。
☐	滑り止め用に床用鋼板形状になっているか。
☐	手摺り脚は、4本止めとなっているか。
☐	別基礎となる点検歩廊、階段は不等沈下を考慮しているか。
☐	蓋類の表面には、原則として、1セットに1箇所以上、荷重条件の表示を行う。
☐	蓋類には、荷重条件(3.5kN/m ²)を明示しているか。(屋外)飛散・落下防止はしたか。
☐	蓋1枚あたりは、20kg以下となっているか。
☐	受け枠に不陸調整ゴムパッキン(CR)を設けているか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編)
第 2 章 機械設備工事
第2節 配管工事

点検実施日	平成 年 月 日
点検者名	印
施工場所	

名 称 : 配管施工関連

1. 全般

- ☐ 亜鉛めっき管の現地溶接は、再めっきとするが、監督職員の承諾があれば、内外面に高濃度亜鉛塗装をしたか。(塗装なら施工中の写真が必要)
- ☐ 必要箇所にドレン管を設けているか。
ドレン管は側溝まで延長されて側溝の流れ方向に吐き出しているか。
- ☐ 必要箇所に空気抜き管を設けているか。弁は分岐近くで手の届く位置に設けられているか。
- ☐ 埋設配管には埋設標、または配管標識シートを設置したか。
- ☐ 動線上の配管に踏台(安全表示付き)が設置されているか。
- ☐ ボルトの突き出し長さは適切か。(2～3山程度)(突き出し調整の切断面の処置はしたか)
- ☐ 架台間等の渡り配管・電気ケーブル等では、耐震や不等沈下対策がとられているか。
- ☐ バルブに(開閉・調整)札を取り付けたか。
- ☐ 鋳鉄管等に異種管を接続する場合は電蝕防止対策を行ったか。
- ☐ ステンレス配管の溶接部は、内外面共、酸洗いを行ったか。
- ☐ 各種配管接続後のルート毎に漏洩・気密・耐圧確認を行ったか。
- ☐ 配管フランジ部分を操作盤・電動機等の上に設けていないか。

2. 塗装

- ☐ 指定色が塗布されているか。
- ☐ 配管類の塗装膜厚記録を作成しているか。
- ☐ 配管名称、流れ方向を記入したか。

施 工 チェ ッ ク シ ー ト

共通仕様書(下水道施設機械編) 機械設備工事	点検実施日	平成 年 月 日
	点検者名	印
	施工場所	

名 称 : 設備全般

1. 施工

☐	機器の配置、レベルは水位条件に対して支障がないか。
☐	基準レベルは確認したか。(水位関係図との確認等)
☐	機器の搬入据付を考慮した配置になっているか。
☐	管理動線は機器の点検、修理及び清掃を考慮したか。
☐	管理動線を考慮し点検歩廊等の施工を行ったか。
☐	管理動線上の危険箇所にトラマーク及び緩衝材を取付けたか。
☐	足場の墜落防止措置は適切か。
☐	将来機器の開口部等危険箇所はないか。
☐	他工事との工程調整を行ったか。
☐	関連工事(電気設備、設備工事等)との調整は行ったか。(施工場所、施工区分等)
☐	各据付フローチャートでの監督職員の立会検査は受けたか。
☐	不可視となる箇所(配筋、アンカーボルト等)は、記録し、写真にメジャーを入れて撮影したか (配筋ピッチ、アンカー差込深さ、ピッチ等)
☐	ゲージ類の向きは見やすい位置(管理動線・操作盤より)にあるか。
☐	ゲージ類の必要な箇所には、管理値(赤色矢印)のマーキングをしたか。
☐	配電盤内の接続端子充電部等を防護したか。
☐	各心線には、端子記号と同一文字のマークバンドを付け、ケーブルシースには ケーブル記号並びに配線区間を記入したバンド又は札を付ける。
☐	盤内の端子には、増し締め確認のマーキングを施してあるか。
☐	コンクリート強度試験成績書に施工箇所を明示したか。
☐	後施工アンカーの施工記録(施工箇所・メーカー・口径別の穿孔深さ等)を作成したか。
☐	水中ポンプ等の副銘板は、水上部にも設置したか。
☐	機側盤の開口部(鋼管導入部など)をパテ埋めしたか。
☐	コモンベース内は、水が滞留しない構造としたか。(モルタル等を流し込む)
☐	給脂ニップルは、給脂し易い位置に設けると共に形を統一しているか。

2. 検査前

☐	社内検査を行い手直しを完了したか。
☐	複数の仕様記載の説明書には、今回仕様にマーキング(矢印)を入れたか。
☐	取扱説明書の中に、年次点検表を入れたか。
☐	各社オイル比較表並びに使用オイルリストを作成したか。
☐	官公庁立会検査は完了したか。また、その書類は適切か。
☐	清掃は完了したか。